

演習1：令和3年度 ウラ模試2

[No.2] 室内の温熱・空気環境に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか

1. 冬季の暖房室で換気を行う場合、一般に、室内温度が低下することで、表面結露が起りやすくなる。
2. ある室内の空気における体感が、空気温度 24℃、相対湿度 100%、気流速度 0m/s の空気における体感と全く同じである場合、「ET24℃」で表される。
3. 平衡含湿率(平衡含水率)は、材料を一定の温湿度の湿り空気中に十分に長い時間放置しておき、含湿量が変化しなくなった状態(平衡状態)に達したときの、材料の乾燥質量に対する含湿量の割合である。
4. 冷たい壁面によって不快感を生じさせないためには、放射の不均一性(放射温度の差)を 10℃以内にすることが望ましい。

演習2：令和3年度 ウラ模試1

[No.3] 換気に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか

1. ある建築物の容積の異なる二つの室において、室内の二酸化炭素発生量 (m^3/h) 及び換気回数 (回/h) が同じ場合、定常状態での室内の二酸化炭素濃度 (%) は、容積が大きい室より小さい室のほうが高くなる。
2. 定常状態において、冬季に外部から室内へ流入する空気の単位質量あたりの体積は、室内から外部へ流出する空気の単位質量あたりの体積より大きい。
3. ボイラー室の給気量は、燃焼に必要な空気量に室内発熱を除去するための換気量を加えた量とする。
4. 空気齢は、室内のある地点における空気の新鮮度を示すものであり、その値が小さいほど、その地点の空気の新鮮度は高い。